

平成17年3月期 決算説明資料

株式会社ホンダクリオ東葛

JASDAQ 2754

2005年7月2日

Contents

- 企業紹介
- 企業理念
- 財務ハイライト
- 業界におけるポジショニング
- ビジネスモデル ー 当社の特徴と事業部門の紹介ー
- 平成18年3月期業績予想および事業戦略

企業紹介

I . 会社概要

II . 会社沿革

企業紹介

I. 会社概要

- 社名 : 株式会社ホンダクリオ東葛
- 設立 : 昭和44年1月
- 資本金 : 210. 3百万円
- 従業員数 : 連結131人、単体74人
- 連結対象 : 株式会社ホンダベルノ東葛 (100%子会社、資本金50百万円)
- 事業内容 : 4つの柱を中心とした自動車販売関連事業
 - ① 新車販売
 - ② 中古車販売
 - ③ サービス(点検整備等)
 - ④ その他(ローン、自動車保険等)

(2005年3月末現在)

企業紹介

Ⅱ. 会社沿革

昭和44年 1月 株式会社不二ホンダを設立
昭和45年 3月 千葉県松戸市馬橋に本社を移転
昭和45年 11月 千葉県我孫子店開設
昭和47年 11月 中古車センターを千葉県柏市に開設
昭和48年 3月 本田技研工業株式会社の販売店網整備により専門店制度発足 専門店の資格取得
昭和49年 1月 ホンダ販売店の店格制度確立 トップランクのL店資格取得
昭和49年 11月 千葉県松戸市五香に五香店開設
昭和50年 5月 本社工場が指定工場(民間車検場)の資格取得
昭和51年 5月 千葉県柏市に柏店開設
昭和53年 6月 千葉県柏市南柏に関連会社、株式会社ホンダベルノ東葛(現・連結子会社)を設立
昭和54年 8月 千葉県松戸市ニツ木に中古車センターを移転
昭和54年 10月 千葉県松戸市小金きよしヶ丘に本社を移転
昭和56年 6月 コンピュータシステム導入(TOSBAC SYSTEM65)、全店舗オンライン開始
昭和60年 2月 商号を株式会社ホンダクリオ東葛に変更
昭和60年 10月 千葉県柏市に柏店を移転
平成元年 5月 株式会社ホンダベルノ東葛が千葉県流山市に流山店開設
平成2年 12月 千葉県白井市に千葉ニュータウン店開設
平成5年 10月 株式会社ホンダベルノ東葛が千葉県松戸市に松戸東店開設
平成9年 5月 株式会社ホンダベルノ東葛が千葉県柏市に中古車センターを開設
平成11年 7月 中古車センターに整備工場を新設
平成13年 2月 株式会社ホンダベルノ東葛を株式交換により100%子会社化
平成13年 3月 千葉県鎌ヶ谷市に鎌ヶ谷店開設
平成14年 12月 日本証券業協会に株式を店頭登録
平成15年 10月 株式会社ホンダベルノ東葛が千葉県我孫子市に我孫子店開設および隣接地に中古車センター移転
平成16年 12月 日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場

(2005年3月末現在)

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

企業理念

企業理念

「車を通した満足を提供します」 そのために、「正しい仕事を正しく」行います。

当たり前のことを当たり前にやる。たとえば、お客様の目に触れない部分にも、どれだけ誠意を注ぎ込めるかといったことは特に重視しています。

そうした姿勢が全社員に当たり前のように身についている組織、社内風土づくりに力を入れています。同時に社内は常にオープンな雰囲気満ちており、しかも全社員が仕事の流れの中で「**正しい仕事**」を行える仕組みが構築されております。

今後、次世代に胸を張って「夢」を引き継げる魅力ある企業づくりを目指すと共に、まさにクリオ（ギリシャ神話に描かれた、歴史をつかさどる女神）に導かれ、地域に根ざしたホンダ車販売による新しい歴史を作ってまいります。

当社が誇れる特長です。

- 経常利益率がディーラー業界対比において、圧倒的に高いこと。
- 他のディーラーよりもローン部分などで売り上げ数値が高いこと。
- 管理体制が整備できているので無駄がなく、販管費率が少ないこと。
- 会社設立36年、赤字は一度も出していないこと。

財務ハイライト

- I. 財務ハイライト
- II. 貸借対照表
- III. 損益計算書
- IV. キャッシュフロー計算書

財務ハイライト I. 財務ハイライト

I. 財務ハイライト(連結)

単位: 百万円

	平成15/3期	平成16/3期	平成17/3期
売上高	8,566	6,930	7,547
営業利益	502	378	470
経常利益	439	395	459
当期利益	252	221	228
総資産	6,898	6,675	6,931
純資産	1,659	1,805	1,966
1株当当期純利益(円)	51.28	41.88	47.25
1株当純資産(円)	337.90	369.79	407.04
1株当配当金(円)	10	10	10
総資本経常利益率(%)	6.4%	5.8%	6.8%
株主資本比率	24.1%	27.1%	28.4%
売上高経常利益率	5.1%	5.7%	6.1%
株主資本当期純利益率	15.1%	11.7%	12.1%

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

財務ハイライト

Ⅱ. 貸借対照表(主な項目)

	連結(単位:千円)		前年比(%)
	平成16/3月期	平成17/3月期	
流動資産合計	3,947,271	4,083,031	103.4%
現金及び預金	653,791	701,882	
受取手形及び売掛金	2,888,397	2,914,816	
固定資産合計	2,727,846	2,848,657	104.4%
有形固定資産	2,169,354	2,318,520	
長期貸付金	151,896	149,917	
差入保証金	236,293	193,656	
総資産	6,675,117	6,931,689	103.8%
流動負債合計	3,833,335	3,973,820	103.7%
短期借入金	2,843,111	2,859,257	
固定負債合計	1,035,983	991,818	95.7%
長期借入金	297,025	278,508	
資本の部合計	1,805,799	1,966,051	
負債・資本合計	6,675,117	6,931,689	103.8%

**受取手形分
2,712,257千円**

※参考 当社は自動車ローンを自社で取り扱っておりますが、この代金の集金業務を株式会社オリエントコーポレーションに委託しています。その際お客様の支払内容に合わせた金額の手形を振り出して頂き、割賦代金の総額を一括して受け取っています。

**この内、手形を担保
とした借入金は
2,712,257千円**

※参考 当社はこの手形を金融機関に担保として差し入れ、同額の融資を受けて運転資金として使用しています。この融資の返済は差し入れた手形の月々の落ち込み額を充当しています。仮にこれを表の上でオフバランスしますと株主資本比率が現在の28.4%から約48.3%と向上しますが、当社グループではこの「受取手形」と同額の「短期借入金」を両建てにすることで、リスクの金額を明確にしております。

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

財務ハイライト Ⅲ. 損益計算書(主な項目)

	連結(単位:千円)		対前年比 (%)	対予算比 (%)
	平成16/3月期	平成17/3月期		
売上高	6,930,781	7,547,509	108.9%	98.1%
売上原価	5,421,329	5,959,570		
売上総利益	1,509,451	1,587,938		
販売管理費	1,131,173	1,116,956		
営業利益	378,277	470,982	124.5%	
営業外収益	45,815	12,668		
営業外費用	28,758	24,301		
経常利益	395,335	459,349	116.2%	106.8%
特別利益	6,138	—		
特別損失	18,467	68,913		
税引前当期純利益	383,005	390,435	101.9%	
当期純利益	221,994	228,252	102.8%	91.3%

主要因として新型車・高額車の投入効果が販売台数増・売上高増に結びついた。

販売車種構成の変化もあり(利益幅が大きい車種のウエイトが高まる)利益増に結びついた。

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

財務ハイライト IV. キャッシュフロー計算書

(自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日) (単位:千円)

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュフロー	281,317
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△158,775
III. 財務活動によるキャッシュフロー	△74,451
IV. 現金及び現金同等物の増加額	48,091
V. 現金及び現金同等物の期首残高	653,791
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	701,882

税金等調整前当期純利益3億90百万円から主に売上債権の増加39百万円、棚卸資産の増加1億1百万円および仕入債務の増加92百万円、法人税等の支払1億46百万円等を調整したものです。

従来賃貸物件であった店舗の購入による支出他2億6百万円、差入保証金返還による収入42百万円等によるものです。

主に借入金による収入1億16百万円、借入金の返済による支出1億12百万円、社債の償還による支出30百万円、配当金の支払による支出48百万円によるものです。

ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

■ 自動車販売業界における ポジショニング

- I. 業界平均との収益力比較①(平成16／3期)
- II. 業界平均との収益力比較②(平成17／3期)

業界平均との収益力比較①

主要財務データ比較 **(参考:平成16年3月期)**

連結、単体ベースともに、収益力(経常利益)において、全国平均対比、大幅に上回っている。

《平成16/3期 全国ディーラー平均対比》

単位:百万円

	平成16/3期 ホンダクリオ 東葛(単体)	平成16/3期 ホンダベルノ 東葛(単体)	平成16/3期 2社 連結	平成16/3期 全車種店 1社平均
売上高	4,202	2,862	6,930	9,311
経常利益	293	102	395	127
同率	7.0%	3.6%	5.7%	1.4%
当期純利益	172	51	221	95
同率	4.1%	1.8%	3.2%	1.0%

日本自動車販売協会連合会より

業界平均との収益力比較②

主要財務データ比較 **(参考:平成17年3月期)**

連結、単体ベースともに、収益力(経常利益)において、全国平均対比、大幅に上回っている。

《平成17/3期 全国ディーラー平均対比》

単位:百万円

	平成17/3期 ホンダクリオ 東葛(単体)	平成17/3期 ホンダベルノ 東葛(単体)	平成17/3期 2社 連結	平成16/3期 全車種店 1社平均
売上高	4,432	3,187	7,547	9,311
経常利益	347	118	459	127
同率	7.8%	3.7%	6.1%	1.4%
当期純利益	165	69	228	95
同率	3.7%	2.2%	3.0%	1.0%

- ・日本自動車販売協会連合会より
- ・直近のデータが平成16年3月期であり、参考として表示

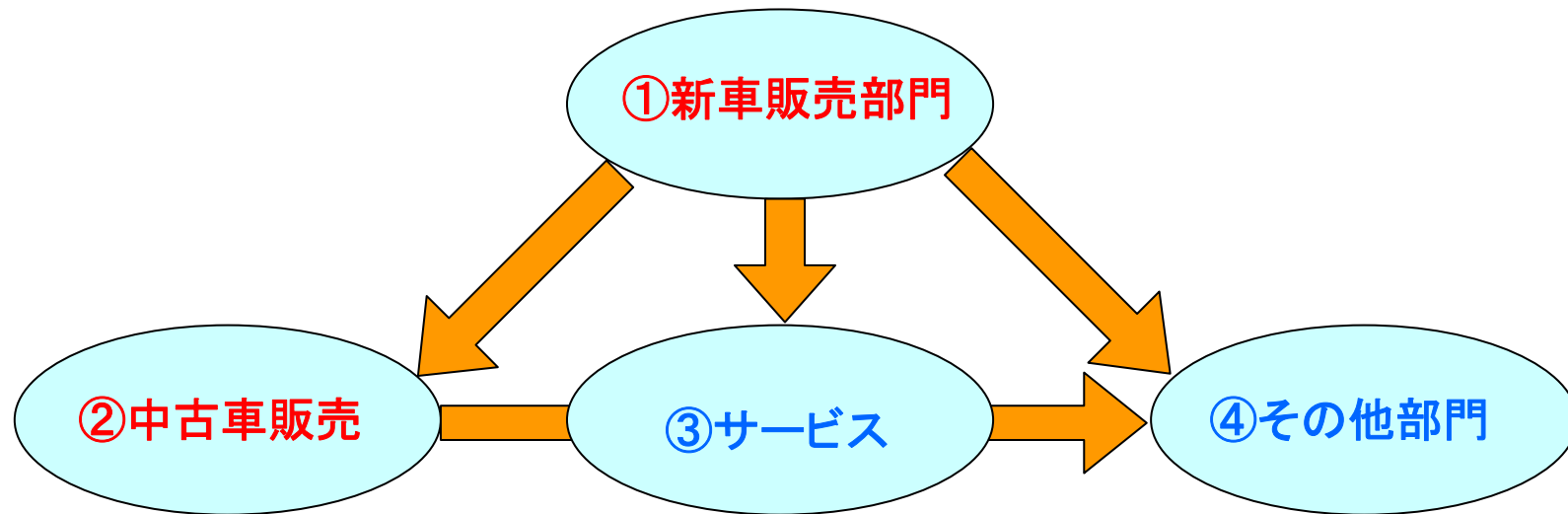
ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

■ ビジネスモデル

当社の特徴と事業部門の紹介

- I. 事業部門の構成
- II. セグメント別構成比
- III. 新車販売部門
- IV. 新車登録台数実績(車種別)
- V. 中古車部門
- VI. サービス部門
- VII. その他

ビジネスモデル 《事業部門の構成》



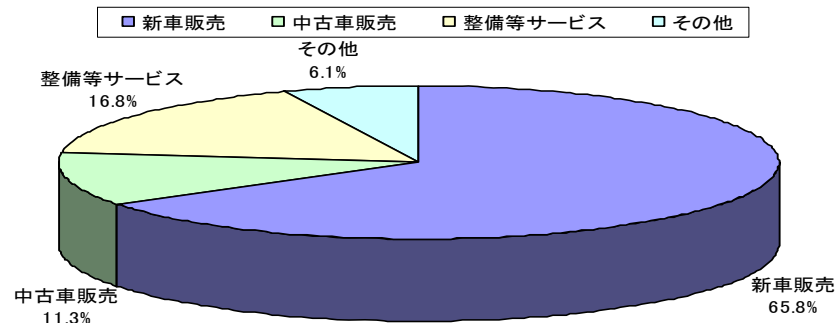
車に例えれば新車販売は事業の動輪。

中古販売・サービス・その他部門が連動して新車販売に依存しない収益構造を確立

ビジネスモデル 《セグメント別構成比》

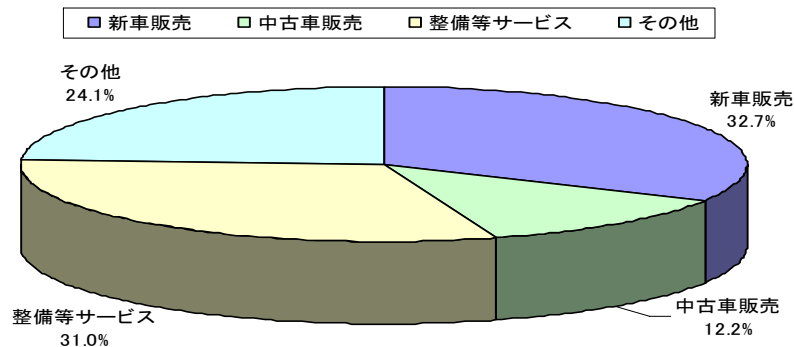
販売単価が高額である新車販売部門が売上高については大きな割合を占めるが、粗利益構成比ではサービス部門と同等となり、ローンや保険を中心としたその他の部門と共に新車販売以外の収益が大変重要である。

《セグメント別売上高(連結)》



	売上高 (単位:百万円)			
	平成16/3期	平成17/3期	構成比	増減
新車販売	4,465	4,966	65.8%	501
中古車販売	796	853	11.3%	56
整備等サービス	1,197	1,267	16.8%	69
その他	470	460	6.1%	-10
合計	6,930	7,547	100.0%	616

《セグメント別粗利益(連結)》



	粗利益 (単位:百万円)			
	平成16/3期	平成17/3期	構成比	増減
新車販売	482	519	32.7%	37
中古車販売	176	193	12.2%	17
整備等サービス	454	492	31.0%	38
その他	396	382	24.1%	-14
合計	1,509	1,587	100.0%	78

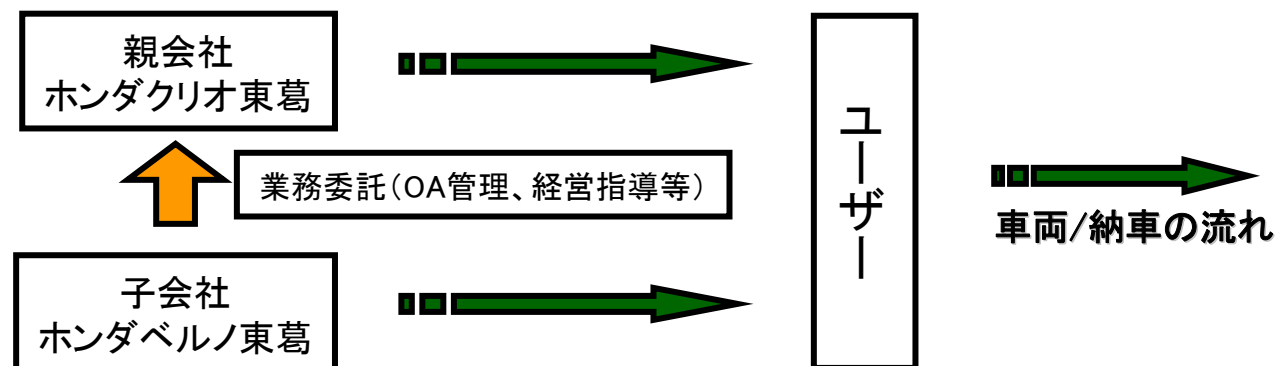
ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ビジネスモデル 《新車販売部門》

- 新車販売は、本田技研工業株式会社の新車を販売
- ホンダクリオ東葛：クリオ系列として、5店舗を運営
- ホンダベルノ東葛：ベルノ系列として、4店舗を運営

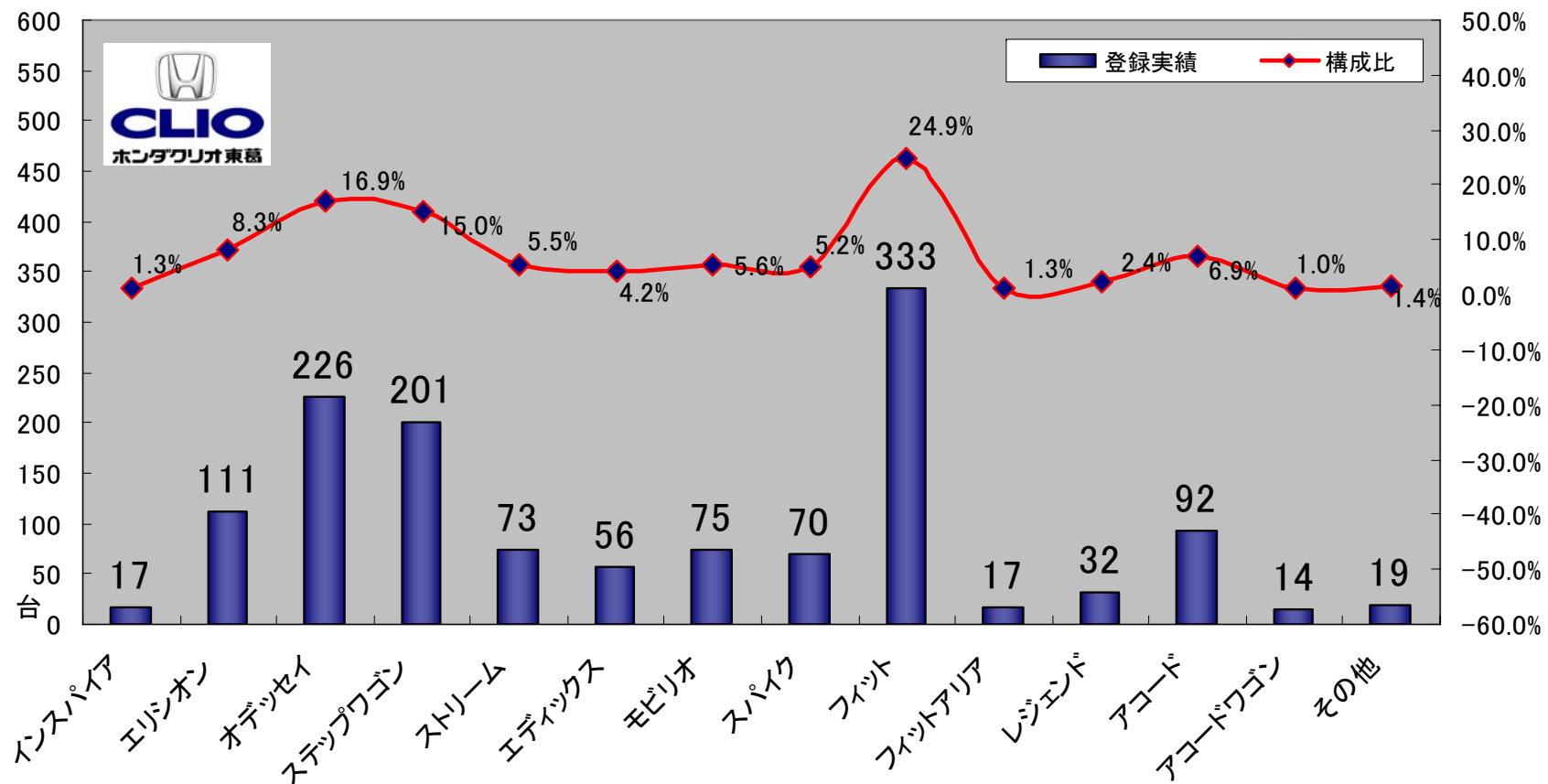
	クリオ系列 〔株式会社ホンダクリオ東葛〕	ベルノ系列 〔株式会社ホンダベルノ東葛〕
専売車	レジェンド、アコード、アコードワゴン	NSX、S2000、CR-V、HR-V、インテグラ MDX、エレメント
クリオ、ベルノ 併売車	インスパイア、エリシオン、エディックス、オデッセイ、ステップワゴン、ストリーム、フィット、 フィットアリア、エアウェイブ、モビリオ、モビリオスパイク、インサイト、パートナー	

事業系統図



新車販売部門

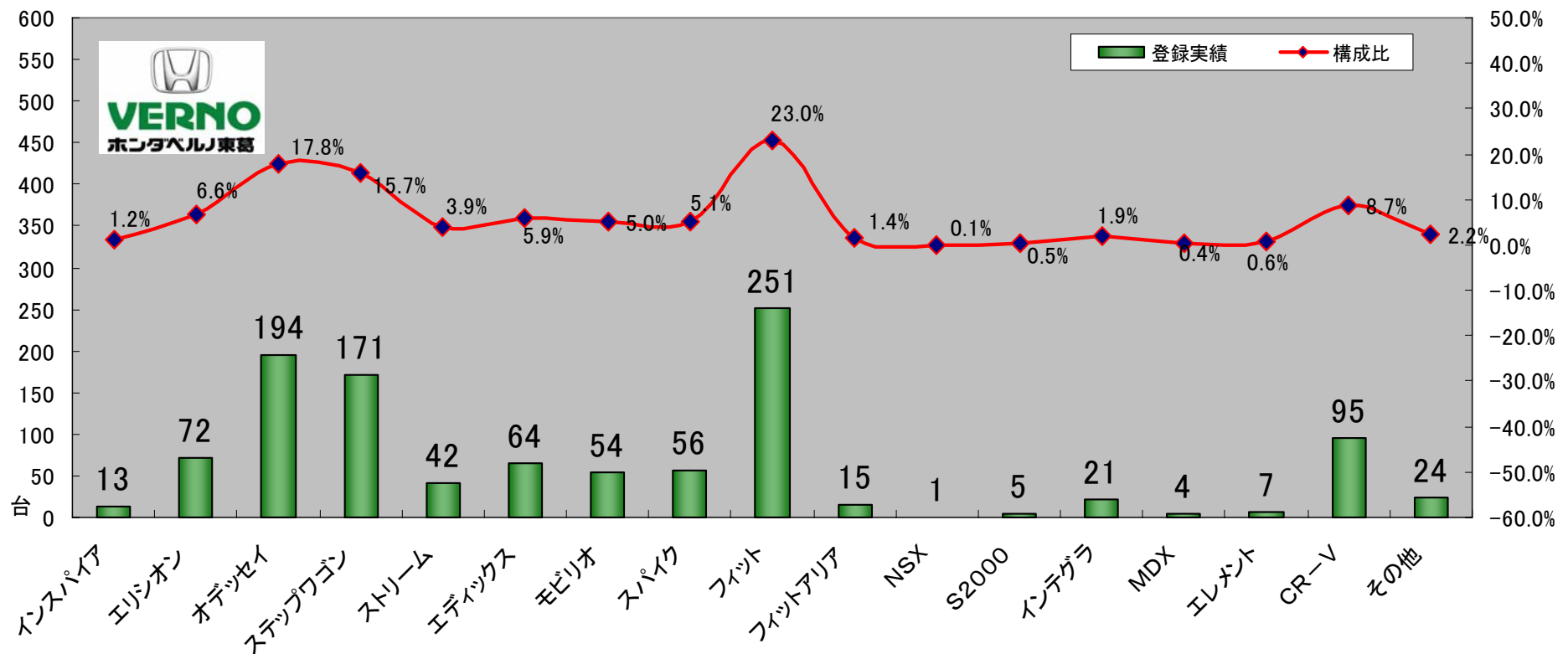
平成17/3期 新車登録台数(車種別) —ホンダクリオ東葛—



ご注意： この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

新車販売部門

平成17/3期 新車登録台数(車種別) -ホンダベルノ東葛-

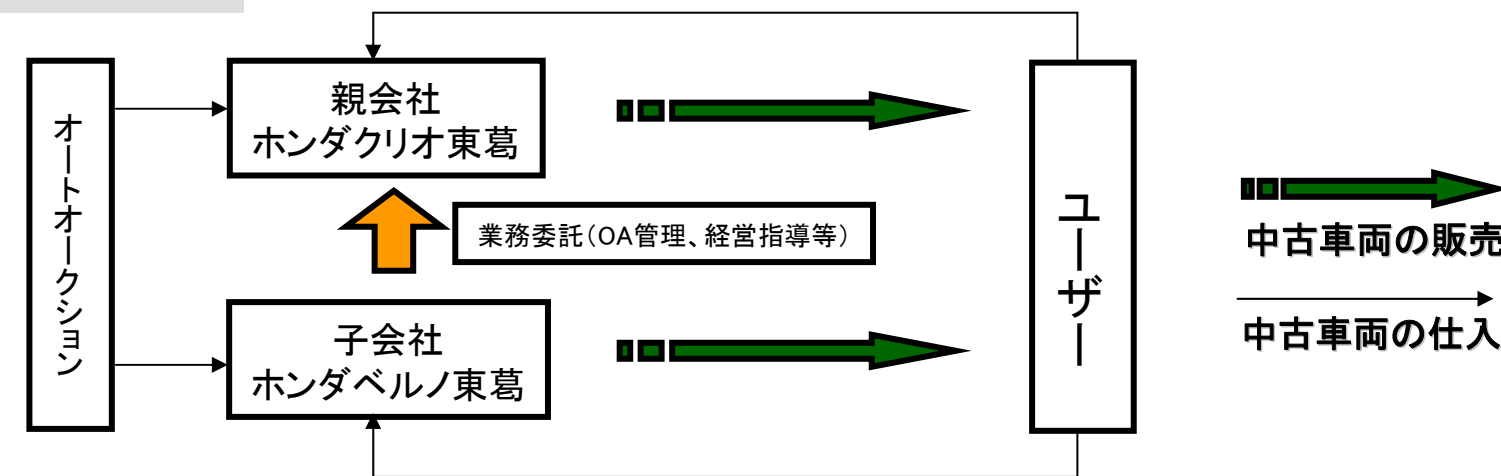


ご注意: この資料は、当社の一般公開情報に基づいて作成された資料であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ビジネスモデル 《中古車販売部門》

- ホンダクリオ東葛:1店を運営
- ホンダベルノ東葛:1店を運営
- 主として、本田技研工業の中古車を店舗において販売
- 一部、中古販売業者への販売を行う。
- 商品の仕入:新車販売時の下取り、オートオークション

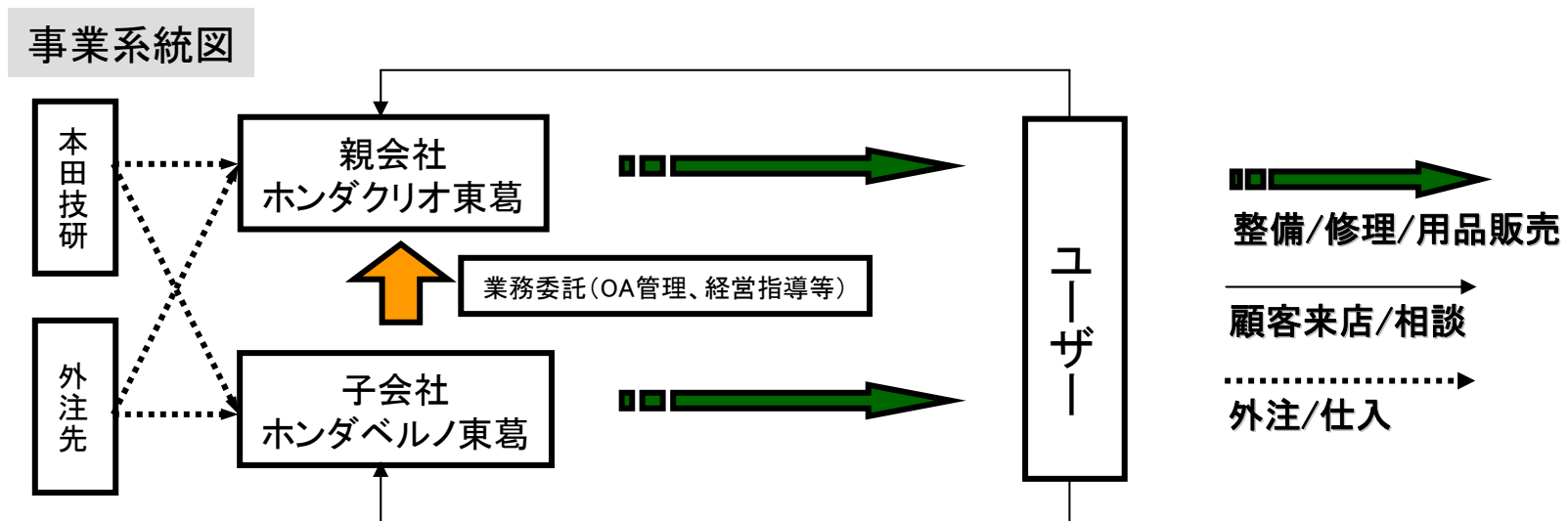
事業系統図



ビジネスモデル 《サービス部門》

- 自動車の車検、12ヶ月点検整備、および钣金修理等の整備全般
- 自動車用品の販売
- 工場：クリオ系列6工場、ベルノ系列4工場
- 内訳：陸運局指定工場（クリオ5、ベルノ2）、認証工場（クリオ1、ベルノ2）
- 特徴：環境問題にも取り組んでおり、全店舗「ベストグリーン」店に認定

*ベストグリーン：本田技研工業の独自制度であり、環境保全に貢献していると認定する店舗のうち、最上級ランクに位置付けられているもの。



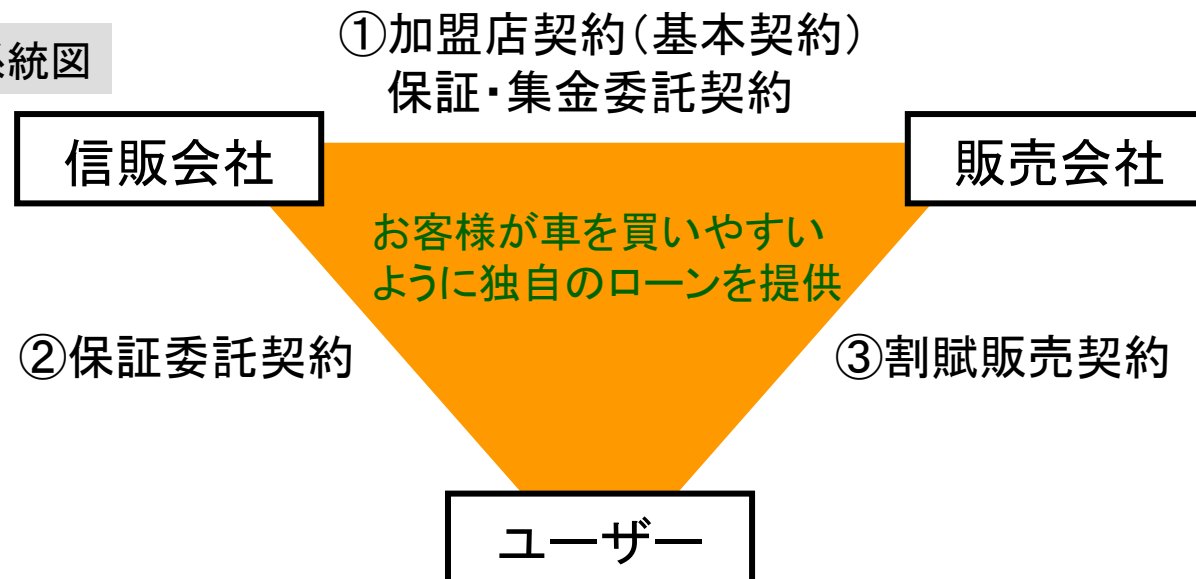
ビジネスモデル 《その他の部門 ローン事業》

当社グループの中に、「信販会社」があるイメージ

- 主力商品：自動車ローン「ホンダ東葛オリジナルローン」
(ローン手数料収入)

一般の自動車ローンが「立替払い方式」を多く採用しているのに対し、当社では「集金保証方式」を採用し、収益の安定確保につなげています。

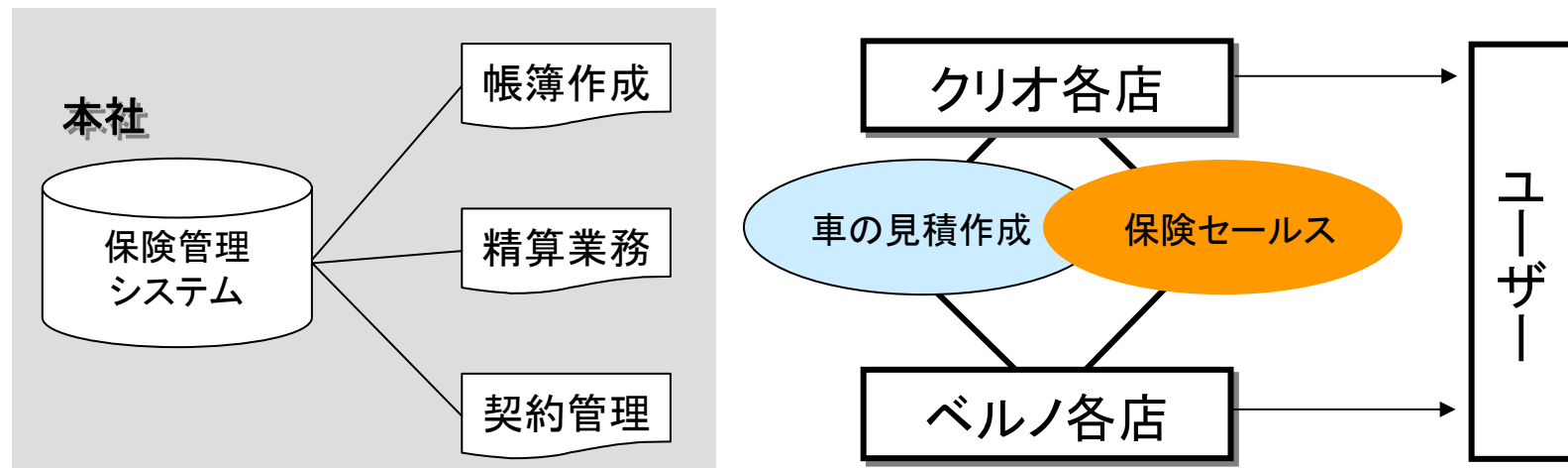
事業系統図



ビジネスモデル 《その他の部門 保険事業》

- 主力商品：自動車任意保険（保険手数料収入）
- お客様のご了解のもと収集させていただいた情報を元にして、自動車の任意保険をセールス
- あいおい損害保険株式会社の損害保険代理店の最上級種別である「J特級」を平成15年12月に取得

事業系統図



■ 平成18年3月期業績予想 および事業戦略

I . 平成18年3月期業績予想

II . 平成18年3月期事業戦略

平成18年3月期業績予測

(単位: 百万円)

	17年3月期 通期	18年3月期 中間	18年3月期 通期	増減率(%)
売上高	7, 547	3, 729	7, 606	0. 78%
経常利益	459	179	410	△10. 70%
当期利益	228	106	243	6. 57%

- 新型車(エアウェイブ)、フルモデルチェンジ車(ステップワゴン)の投入効果により売上高は一定確保を予定しているものの、政策的に実施したオートローンの金利引き下げを主要因として経常利益は前年より減益を予定しています。

今期(平成18年3月期)事業戦略

①. 新車販売事業

平成17年4月に発売された新型車「エアウェイブ」、平成17年5月にフルモデルチェンジした「ステップワゴン」の新車効果を最大限生かして行きたいと考えております。また、オートローン金利引き下げによる全体の販売台数の拡大を図ってまいります。お客様との接触頻度をアップするための施策である月一TELコール(月一回の確実なお客様との接触)の一層の定着により、既存ユーザーの皆様のご意見・ご要望を会社政策に生かしていくと同時に自社代替の促進につなげてまいります。

②. 中古車販売事業

新車営業マンの査定技術アップを図り、適正な、かつお客様の納得できる下取車査定により、下取車の入庫率アップを図ります。民間車検工場を自店敷地内にもつクリオ・オートテラス店、新車店舗・工場と併設しているベルノ・オートテラス店、両店共に共通する良質なアフターサービスを提供できる工場部門を持つという利点を生かし、既存ユーザーの皆様の代替、紹介依頼活動を徹底していきます。ホームページ上の中古車情報のタイムリーな改廃等による情報発信に努め、集客につなげてまいります。

③. サービス事業

現在、民間車検工場がクリオ6工場中5工場、ベルノ4工場中2工場ありますが、お客様の利便性向上を図るためにも、残り3工場の民間車検工場化を推進してまいります。当社の利益を支える重要な部門として、サービスメカニクの技術向上になお一層努め、信頼の高い工場として、営業部門と一体となった誘致による車検・点検の入庫率アップにつなげてまいります。

④. その他事業(ローン、保険)

新車販売の量の拡大に結びつけるべく、オートローンの金利の引き下げを実施しました。営業マンへの教育・指導による利用率のアップにより、更に多くのお客様に当社オリジナルローンのご利用をおすすめしてまいります。保険部門においては安定的に増収している保険手数料のアップを今後とも続けていくため、取引保険会社と一体となった営業マン教育に努めることを基本にして、併せてお客様の信頼確保にもつなげてまいります。また、当グループとお客様の結びつきを保険を媒介に一層強固なものにするべく、現在約18%程度の保険加入率を中長期的に25%にすべく、既存ユーザーへの働きかけを徹底してまいります。

IR連絡先

お問い合わせ先

- 本件に関するお問合せ先
- 株式会社ホンダクリオ東葛 IR担当
- 本社：千葉県松戸市小金きよしヶ丘3-21-1
- 電話番号：047-346-1190
- ファックス：047-346-1159
- ホームページ：<http://www.hctk.co.jp>